

みんなで子育て No.3



家庭教育学級リーダー研修会の幼・保の部で実践発表された子苑第一幼稚園の「お父さんの勉強会」は大きな反響がありました。今年は子苑第二幼稚園で第一幼稚園と合同で実施されました。



那加学園 子苑第二幼稚園 お父さんの勉強会 (講演会型)

「絵本は大切なこころの栄養です。親子で絵本を楽しむコツ」

開催日：6月8日(土)
講師：チャイルド社 編集部
保育絵本研究室長 高崎 真 氏



◇野島園長：S50年代よりお父さんの勉強会を行ってきている。月刊絵本は学年ごとに購入し、園で読んで持って帰っている。家での楽しみ方を学んでほしいとの願いでお願いした。

○何の写真？写真から何に見える？といったクイズから子どもの想像力の素晴らしさ・絵本を読んだ時の子どもの目の付け所から学ぶすごさ・鋭さを紹介された。

○絵本を読むのは3つの楽しみ
想像遊び・絵さがし遊び・会話遊び

○受け答えを楽しく
絵の中にある野菜は？「お肉」と答えても「なぜ？」と聞いてあげる。「ピーマンを食べるとひげが生えてくる」と話し興味を持たせる楽しいお話やお土産が一杯。



コメント

講師の絵本作りの経験と子ども主体の思いが、「読み聞かせ」といった、聞かせようとする言葉に対して、読み手が「聴く気にさせる、面白く、人を楽しませる工夫」を大事にしてほしいというお話でした。

保護者は夫婦での参加が多く、託児も行っていることもあり、講師の話に集中し、引き込まれていました。

親子の会話のための絵本、子どもの目の付け所のすごさを感じさせるさすがと言えるお話でした。

<感想等>

- ・今日のお話は目からウロコの内容で、「絵本を読む」という事の考え方や向き合い方を見直す」とも素敵な機会となりました。「子どもと一緒に絵本を楽しむ」ことは今しかできないとても大切な時間だと思いました。今日、早速絵本を読みたくなりました。ありがとうございました。
- ・前略・・・これからは子どもと絵を読みたいと思います。勉強会に参加させてもらってよかったです。絵本は少し苦手でしたが、とても興味が出てきました。子どもと楽しい時間を過ごしたいと思いました。子どもの想像力ってすごいなあーと思いました。

●今年度は、乳幼児の学級や教室をのぞかせていただいています。

瑞穂市 1歳児教室 巣南保健センター 4月12日(金)

参加人数：保護者21名 乳幼児23名 保育士1名 保健師3名
内容 テーマ「向き合い遊びを体験して子どもの反応を楽しもう」

- 1 ペープサート(いないいないばあ)
- 2 手遊び おすわりやす、ひこうきブンブン
- 3 親子遊び(バスにのって)
- 4 交流会

○様子の紹介

・1歳になった子は、ハイハイの子、立って歩く子というように様々。言葉がまだ出ない。親子での活動は、ペープサートや絵本での変化を楽しむもの、歌やことばの変化で楽しむもの、親子で手を添えてのだっこや持ち上げなどスキンシップが多い。中心となるのは向き合って子どもの顔を見て行うもの。

・「なるほど」と思ったのは、「バスにのってゴーゴー」でハンドルを配った輪で扱います。音楽が流れると、リズムに合わせよく動きます。終わって、輪を片づける時に、子どもは返すのを嫌がる場合があるので、「返して」と言わずに、木を用意して、木の枝に掛けてみようということで遊びこして、かけることができたらほめまくる。すると、全員が返すことができました。しつけを遊びで覚えられますね。交流会の後、流し靴で帰ろうとしますが、ある子が、アンパンマンのおもちゃが気に入って、返さないで、お母さんが「返そ」とか私が「ちょうだい」と言うと、渡してくれますが、また持って行ってしまふ。それを見た保育士さんが「入れ物を用意して「入れて」と言うと、すぐ入れて、周りでほめるとそのまま帰って行きました。輪を返す練習が生きていました。

・交流会では、便の回数とか、成長するに伴い、いろんな所に手や顔が届き、危険な場所が変わっていくことや、夜立きをしなかったが、急に夜立ち始めた。兄弟で違うことが多いということ。下の子の遊び道具をほしがると、多くの気になることが話され、それに対して、互いに補う関係や、自分もそうであったと共感することが多くあって安心されていました。やはりサロンの必要性を感じました。



翌週のお弁当の日に向けて1年生におにぎりづくり体験を実施

開催日:6月7日(金)
講師:松枝小学校母親委員会
小学1年生対象



●活動内容

松枝小学校は年3回の「お弁当の日」の実践を10年近く続けています。PTAの母親委員会は1年生にとって初めての「お弁当の日」に向けて、おにぎりの作り方を給食の時間に教えています。

栄養教諭と共に企画をして、おにぎりを作ることができるメニューにしていたというそうです。

母親委員は、各教室に分かれて、分かりやすく写真で示しながら説明しました。



- 1 ご飯が入っている食器にラップフィルムをかける。
- 2 ラップフィルムをかけたまま、食器をひっくり返す。
- 3 食器をどけて、ラップフィルムごとご飯を手のひらに載せる。
- 4 片手を三角にして、ご飯をにぎって三角型のおにぎりにする。



三角型が無理なら球型や俵型でも良いと伝え、作る楽しみを味わえるように配慮していました。

<委員の感想>

- ・子どもたちが、楽しんでくれてよかった。
- ・子どもたちが、話をよく聞いて作っていた。「こんな感じでいい?」と尋ねてくれた。
- ・毎年、「お弁当の日」の前の週に実施しているの、家庭での家族での話題になり、盛り上がっている。

コメント

「お弁当の日」を年3回実施しているという事が、まずすごいです。1年生の6月15日の初めてのお弁当の日に向けたおにぎりづくりの指導がPTA主体で行われていることが素晴らしいですね。おにぎりの作り方の1つの型がしっかりしていて、提示資料も整っていて1年生にわかりやすく説明できています。母親委員会と栄養教諭が一緒になって進めていることがいいですね。



できた喜びに満ちた1年生の笑顔が印象的でした。

開催日:6月11日(火)
講師:栄養教諭
世一 裕子先生



●給食センター調理風景見学:

野菜下処理室はすでに作業を終えている。スチームコンベンションオープンで蒸気で加熱されている。作業が力仕事であるが、調理員さんの動きがスムーズで、連携も良く感じる。作業後の掃除もとても丁寧である。給食センターが作られて10年を経ても、調理場の清潔さに参観者が感動している。



●栄養教諭による講話:季節の野菜・果物を使う。骨ごと食べられる魚を使う。子どもの味覚を広げる。本巣市産の食べ物がいっぱいということや調理員さんの手間をかける姿が印象的であった。

○質問・苦手な食べ物の克服:方法の一つとして一緒に料理することに傾きあり。

・ハート型の人参があったと聞いたがどうやったの?

型を使って、工夫している。中3の卒業カレーに合格を祈念して人参を桜の形に入れて。

●学校へ移動、家庭科室での試食会 メニュー:ソフト麺(岐阜県産小麦粉)・肉味噌かけ・牛乳(岐阜県産)かぼちゃフライ・ブロッコリーのおかかあえ(本巣市産キャベツ)

配膳はスムーズにでき、親子での座席、委員長による名札の工夫、黒板の掲示の工夫がされていて、親子で楽しそうに食べていました。

コメント

本巣市の学校給食センターの衛生管理や献立のお話に対して、手間暇かけてもいいものを食べさせたいという意欲や熱意が参加した保護者に伝わる内容でした。

給食は入学して2か月の1年生がちゃんと配膳して、食べきろうとする姿があり、保護者も驚きや安心をした様子でした。

食べることへの興味・関心が高いと感じる会でした。



<感想等>感想

- ・給食センターの調理の様子を初めて見ましたが、大量の食事を作るという事で力のいる仕事であり、大変だと感じました。先生のお話もとても分かり易く参加して良かったです。先日、チャーハンが給食で出たと子どもから聞き、「本当に出たの」と私自身驚きました。とてもおいしかったと言っていました。手作りのものも手間がかかるのに作ってくれるので、子どもたちのことを考えていると感じました。
- ・子どもたちが配膳するところは初めて見ました。当番さんも上手だし、待っている人も上手でした。子どもと給食を食べられるなんて人生で初めて最後ですね。よい機会をありがとうございます。
- ・子どものころから好きだった、肉みそのソフト麺が久しぶりに食べられてとてもうれしかった。普段はしいたけが嫌いな子どもが、給食の中に入っているものを食べていたのすごいなと思いました。味つけも工夫して家でも作ってみたいです。

羽島市立中島中学校 **Society5.0 時代の子育て** (講演会型+サロン型)

開催日:6月20日(木)
講師: 校長 小島孝則 先生



●講演内容

どちらがお好きですか。ジグソーパズル・レゴ?といった質問や昭和・令和等の時代の象徴家族アニメを使って、時代と共に家族のカタチが変わっていくこと示されました。

○次に Society5.0 動画から

ドローン配送、AIスピーカー、お掃除ロボット、自動運転バスなど近未来の様子が紹介されました。また、世の中がどんどん便利になる一方で、人生100年時代を迎えることや今ある職業の半分程度なくなることが予測され、先行きが不透明になっています。



コメント

身近に迫った Society5.0 時代を示し、それに向けて情報編集能力が必要とされることを、アニメ、クイズ形式等でイメージしやすくされ、興味を持って話を聞くことができました。

最初の自己紹介で、かなり盛り上げることができており、最後の「子どもを叱る順位は?」でもそれぞれの思いや考えを自由に話せる雰囲気があり、参加意欲の高さを感じました。

○今後重要視されるのは

情報処理能力・情報編集能力・基礎的人間力のトライアングルのうち情報編集能力が特に必要とされてきます。「自分で考え、判断し、行動できる子」を育てなければなりません。

そのために「子どもに考えさせ、決めさせる。」「転ばぬ先の杖を出さない」等の例を示されました。

最後にいくつかの事例を示しながら「子どもをしめる順位は?」とグループごとで話し合う機会がもたれました。



<感想等>

・「Society5.0 時代の子育て」時代によって子育てに変化があるという考え方を持っていなかったので話を聞いて納得できることがありました。基本的な子育ては変わらないでしょうが、生き方がこれまでと変化して、仕事も時代と共に変化していく等、子どもたちには違う未来があるのだと思うと不思議に感じます。子ども自身が自分で生きる力をつけられるようにこれからを子どもと一緒に考えてみたいと思いました。子どもの考える力を親がうばっていたことを反省しました。

各務原市立鷺沼第二小学校 **読み聞かせ教室** (講演会型+体験学習型)

開催日:6月20日(木)
講師: 各務原市立中央図書館 塚本悦子 氏・伊藤 緑 氏



●講演内容

講師より、読み聞かせは、まず読む人が楽しんでほしい。楽しいと感じた本を読んでほしい。そして、子どもにもその楽しさを共有してほしいと話されました。

・講師がずっと読んでいる絵本「かみさまのおくりもの」を紹介された。

○絵本は、誰でも一つの本で聞き手・読み手の子どもが世界を共有できます。疑似体験もできる。15歳までの読書体験により本好きな子になります。

・いい絵本は何度も読まれている本、絵がお話を語っています。

コメント

今回の学級は、多数の子どもに対する読み聞かせのお話です。絵本紹介も多くあり、子どもにどのよう読み聞かせをすればよいかを明確に教えてもらえたという感じがしました。

実際に絵本ボランティアの方が参加されており、絵本の読み方もかなり慣れているようでレベルの高さを感じました。

紹介する絵本も絵が中心のものや、みんなで動いたり、声を出したりするものなど、楽しいものが多く終了後本を借りたいという人が続出でした。

家庭でも学校でも絵本を読んでもらい、喜ぶ子どもの顔が浮かびます。

○読み聞かせの実践

・絵本「どうぶつサーカスがはじまるよ」を文章をそのまま読み全員で声を出しました。

・絵本「あーといってよあー」を使って声を出す練習

・本の持ち方、絵が見えるように立って読む、位置によっては椅子に座って読み、子どもが少し見上げるような位置にします。

・題名・作者・絵の作者の名前もしっかり読む、見開きもしっかり見せます。

○グループで互いに聞き合いながら、互いに確認したり、講師からアドバイスされたりしました。



<感想等>

・見やすい本の持ち方、立ち位置等当たり前だけどそうだなあと感心しました。文章が長い本を読み聞かせなくてはいけないかとちょっとゆううつになっていましたが、文章が短い本でも構わないと教えていただけて、ありがとうございます。

・たくさんの方と読み聞かせをしたり、図書館の方がアドバイスを下さりして、とても勉強になりました。

・読み方を学べたことも良かったですが、それ以上に、子どもが喜びそうな本がたくさんあってこれから図書館でかりたいなと思いました。

・改めて絵本の読み聞かせは面白いと思いました。



岐阜市立三輪中学校 親と子のコミュニケーション

(講演会型+体験学習型)

開催日:6月21日(金)

講師:プロフィッショナルコーチ
キャリアコンサルタント 浅井真帆氏



●講演内容

- まず自分のコンディションを把握するため、動いて確認
- ・コーチングは高橋尚子さんのコーチ小出監督のように答えを自分で出す、力を引き出す、聞いてあげる姿勢が重要
- ・子どもの長所を認める。受け入れ、信頼関係づくりが大事
- ・子どもの理想の思いを現実化してあげるのが親の役割
- 半年後→三か月後→一か月後→一週間後→今日から何を行うのか
- ・子どものよさを示してあげる。
- ・自分の人生の主人公は誰? 応援するから。未来は選択可能
- ・3つのアイ: アイコンタクト・Iメッセージ・愛をもって
- ・「ありがとう」を伝える。

○「お子さんの夢を心から応援するために、あなたが今日から始めることはどんなことですか？」

- Aさん: 1 子どもと向き合うことが少ないので、話す時間を作りたい
2 あなたはね・・・と言ってしまうのではなく、私ま・・・と思うと伝えたい
3 「それとって」というようなときに「ありがとう」と言うように心がける。

参加者全員が発表し、講師からコメントを頂き、意欲を高めていました。全員発表がすばらしいですね。

<感想等>

- ・いつも子どもを叱ってばかりで、感謝の言葉や良さを伝えようとしてない事に気づきました。子どもの気持ちを考えて聞き、自分の考えを伝えるという事を大事にしたいと思いました。
- ・講師の方のお話が分かり易くてよかった。一人一人の気持ちに寄り添って話を聞いてもらえてよかった。



コメント

親は子どもの一番の理解者で支援者と言うことを明確に示されている。ご自身の子育て中に会ったコーチングにより、子どもがやりたい事をどんどんやっていけたお話があり、説得力があった。

中学生は進路を具体的に考えていく時期であり、どのような関わりがよいのか大きなヒントになったと言える。

資料にもコミュニケーションのヒントなど参考なる言葉がたくさんあり、今後、役立ちそう。



第2回 岐阜地区家庭教育推進会議

令和元年6月26日(水) 会場:羽島市立桑原学園

地域ぐるみで園児・児童生徒を健全育成するための役割と連携の在り方
—子どもと子ども、子どもと大人のあたたかい人間関係づくり—



第一回 岐阜地区幼・小・中・義・高生徒指導連携強化委員会及び第二回岐阜地区家庭教育推進会議に各市町の家庭教育担当者を含め約80名が参加されました。学園紹介で今年度「防犯ボランティア」募集に40名もの多数の応募があったことに参加者から驚きの声がありました。

1、桑原学園学校全校集会「ひびきあい集会」参観

最初に桑原学園ひびきあい宣言を行い、自分たちの生活の中で何ができるかを1~3年、4~6年、7~9年の集団に分かれて話し合いました。それぞれの集団の話し合いが活発で、一人一人の発言が学年関係なく発表でき、聴きあえる関係があり、児童、生徒が話し合いを組織して、まとめるという素晴らしい姿に参観者が感心しきりでした。

2、全体会:趣旨説明として重点①豊かな人間関係づくり②保護者との関係づくりがあり、活動として「あたたかい言葉かけ県民運動」と「居場所と絆づくり交流会」の紹介がありました。

家庭教育については、「家庭の教育力向上によるいじめ問題のアプローチ」と題して、いじめ問題に対して家庭教育学級のマニュアルプログラムや講演会による対応・防止の研修により力を高めている事が紹介されました。



3、分科会及び協議

6年生と9年生の児童生徒が各グループに分かれて、「一人一人を大切にするためには、どんなことをするとよいか」をテーマにして交流会が行われ、あいさつを大事にする、(学園では、前期課程が毎日あいさつ運動を行い給食時に良い姿を放送で伝える活動をしている。)相手のことを考える、感謝の言葉を大事にする、等の意見が出されました。どの分科会でも児童生徒が一人一人を大切にしている集会であることの素晴らしさを話されていました。



児童生徒の素直な堂々とした発言から、異年齢集団や地域の方を交えた思いやりの活動が大事であることを感じる時間となりました。